



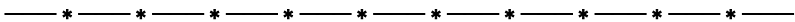
**Data**

監督・脚本: アレクセイ・シドロフ  
 出演: アレクサンドル・ベトロフ/  
 イリーナ・ストラシェンバウ  
 ム/ヴィンツェンツ・キーフ  
 ザー/ヴィクトル・ドブロヌ  
 ラヴォフ/アントン・ボグダ  
 ノフ/ユーリイ・ポリソフ

## 👁️👁️ みどころ

中国が『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』(17年)なら、ソ連はこれ! 観客動員数と興行収入の規模は中国、韓国に劣るものの、愛国心や国威発揚意欲ではソ連も負けてはいない。しかして、観客の度肝を抜く最高峰の<戦車アクション・エンターテインメント>とは?

大脱走の基本ストーリーでも、捕虜の男女間に咲く恋でも、かなりバカげた設定だが、面白くて説得力さえあれば映画はOK。そんなエンタメぶりを本作でじっくりと。ハリウッドの大スターを結集した『大脱走』(63年)では数名しか成功しなかったが、さて、T-34による4人の男と1人の美女の大脱走の成否は・・・?



## ■全露NO. 1メガヒット! その規模は? ■

中国映画の2017年大ヒット作にして、興行収入1000億円を上げ、中国・アジアの興行収入歴代トップになったのは、呉京(ウー・ジン)監督の『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』(『シネマ41』136頁、『シネマ44』43頁)。これは、アフリカの某国で起きた内戦で、「中国版ランボー」と呼ばれる主人公が、中国人民と祖国のため、大活躍するものだ。また、韓国では観客動員数1761万人の『バトル・オーシャン 海上決戦』(14年)が興行収入でも134億円でトップだったが、2019年の『エクストリーム・ジョブ 究極の職業(原題: 極限職業)』がそれを追い越した。その観客動員数は約1600万人で『バトル・オーシャン 海上決戦』より少ないが、映画館入場料引き上げによって、その興行収入は135億円でトップになった。

それに対して、「観客動員800万人、興行収入40億円超えの“全露”NO. 1メガヒット」となったのが本作。本作のパンフレットにある「INTRODUCTION」では、「観客動員800万人、興行収入40億円超えの“全露”NO. 1メガヒット!!」の文字が躍っている。その点についての紹介は次のとおりだ。

第67回アカデミー賞®外国語映画賞受賞『太陽に灼かれて』の監督ニキータ・ミハルコフが製作し、本国ではロシア映画史上最高のオープニング成績を記録！最終興行収入は40億円を超え、観客動員800万人という驚異的な数字を叩き出し、2019年全“露”NO. 1メガヒットとなる！もはや社会現象として世界各国からも注目を集める戦車アクション超大作『T-34 レジェンド・オブ・ウォー』。

この数字（規模）を見ると、ロシアにおける映画の興行収入や観客動員数が、中国や韓国に比べていかにか小さいかがよくわかる。ロシアと韓国の人口を比較しながら、その観客動員数を比べてみると？また、ロシアと中国の人口を比較しながら、その興行収入の額を比べてみると？本作を製作したニキータ・ミハルコフは、『太陽に灼かれて』（94年）の他、『12人の怒れる男』（07年）（『シネマ21』215頁）でも有名な監督。しかし、いくらそんな有名監督が製作しても、ロシアでは所詮その規模・・・？

## ■□■本作のセールスポイントは？■□■

「INTRODUCTION」では、「遂に日本に上陸する、観客の度肝を抜く最高峰の戦車アクション・エンターテインメント」ぶりについて、次のとおり紹介している。

第二次世界大戦下、たった4人のソ連兵捕虜が6発の砲弾と1両の戦車“T-34”を武器にナチスの軍勢に立ち向かう胸熱シチュエーション、戦場で立ちをはだかる宿敵（ライバル）、そして収容所で出会ったヒロインとのドラマチックな恋の行方―。観客の度肝を抜く最高峰の＜戦車アクション・エンターテインメント＞が、遂に日本に上陸する！！

また、「INTRODUCTION」での本作のセールスポイントの第1は、「ロシア最先端のVFX技術を結集したダイナミックな映像革命！！」。その点については、次のとおり、紹介している。

片輪走行にドリフト旋回する戦車、着弾・炸裂する砲弾描写、そして爆炎・・・観客が目撃するのは、もはや映像革命と呼ぶに相応しい超絶VFXの数々。『バーフバリ 王の凱旋』のVFXを手がけた＜Film Direction FX＞を筆頭にロシア最先端の映像技術を結集し圧倒的なアクションシーンを活写！いまだかつてないダイナミックかつアドレナリン全開の戦車戦を体感せよ。

本作のセールスポイントの第2は、「リアルを徹底的に追及した最高峰の戦車アクション！！」。その点については、次のとおり、紹介している。

登場するソ連軍の“T-34”はすべて本物の車両を使用し、役者自らが操縦する本格

的な撮影を敢行。戦車内には小型カメラを複数台とりつけ、閉鎖的な戦車内と兵士たちを克明に映し出すことで観る者をリアルな戦場へと誘う。さらに、詳細な資料の元、美術、衣装とも徹底的に再現することを追求した。

本作はそんな戦争映画だから、パンフレットには、大久保義信（月刊『軍事研究』編集部）の『「T-34 レジェンド・オブ・ウォー」の世界 ～歴史&車両解説～」と題する4ページに渡るコラムがあり、【独ソ戦】【T-34】【パンター】【傾斜装甲】【赤外線暗視装置】等について、異例の詳しい解説がされている。また、2ページにわたる「声優・上坂すみれインタビュー」があり、そこでは、ソ連・ロシア研究、ミリタリー、香港映画、ロリータ服等々、多岐にわたる趣味でも注目を集めている上坂すみれの博識ぶりが披露されている。

本作を楽しむにはこれらの専門知識があった方がベターなので、これは必読！

## ■□■冒頭と導入部からド迫力の戦闘シーンが！■□■

本作冒頭は、本作の主人公であるニコライ・イヴシュキン大尉（アレクサンドル・ペトロフ）が、いきなり雪中でナチス・ドイツの戦車に襲われるシーンから始まる。彼が1人の部下と共に乗るのは基地で炊事するための車両だが、後ろから追ってくる戦車の砲弾を見事にかわし、基地に逃げ込んだから立派なもの。まずは、この冒頭のシーンに見る、イヴシュキンの高い戦闘能力(?)を確認！

続いて、ドイツ軍によって防衛線が破られ、厳しい戦況下にある基地の中で、彼が1台だけ残ったソ連軍戦車“T-34”の戦車長に任命されたのは、ある意味当然。そこで彼は、3人の部下と共にこの戦車に乗り込み、わずかに歩兵の助けを借りながら、イエーガー大佐（ヴィンツェンツ・キーフアー）率いるナチス・ドイツのⅢ号戦車の中隊と戦うことに。実戦ははじめてという車長兼砲手のイヴシュキンに、①操縦手、②装填手、③無線手兼車体機銃手の役割を果たす3人の部下、ステパン・ヴァシリョノク（ヴィクトル・ドブロヌラヴォフ）、ヴォルチョコ（アントン・ボグダノフ）、イオノフ（ユーリイ・ポリツ）たちは当初不安を抱いたが、イヴシュキンの一糸乱れぬ統率力を見て、俄然一致団結。

導入部では、イエーガー率いる圧倒的なドイツ戦車軍団を相手に、イヴシュキンが次々戦局を圧倒していく姿に注目！しかし、共に傷ついたイヴシュキンの戦車“T-34”とイエーガー大佐のⅢ号戦車が対峙する中、イヴシュキンは瀕死の重傷を負い、捕虜として収容所に送られることに。

この戦いは1941年のことらしい。しかし、スクリーン上はそこから一転、3年後の1944年に移る。その舞台は、テューリンゲン州の強制収容所。そこには1人、ナチス将校の命令を無視し続け、拷問を受けているソ連軍の捕虜がいたが・・・。

## ■□■バカげた設定だが、それでも面白い。なるほど、その1■□■

映画はあくまで作りものでエンタメだから、現実にはあり得ないバカげた設定でも、面白ければ、そして説得力さえあればそれでOK。強制収容所でのイヴシュキン大尉とイエーガー大佐の3年ぶりの“ご対面”がバカげた設定なら、ヒムラー長官からSS装甲師団ヒトラーユーゲントを任せられ、より優秀な戦車兵を育てるため、捕虜の中にいる戦車兵を使ってヒトラーユーゲントの戦車兵を訓練するための演習を命じられたイエーガー大佐が、イヴシュキンの写真を発見し、「この男と戦わせれば最強のヒトラーユーゲントの戦車兵を育てることができる」と確信した、というのもバカげた設定だ。しかし、そんなバカげた設定によって、3年前にT-34に乗り込んでナチス・ドイツのⅢ号戦車と戦ったイヴシュキンたち4人が、再びナチス・ドイツ軍から提供されたT-34に再び乗り込み、訓練の場ではあっても、Ⅲ号戦車と戦うことになろうとは！

もちろん、これは演習だから、ヒトラーユーゲントの戦車は実弾を使用するのに対し、イヴシュキンたちは砲弾を持たず、ただ逃げ回るだけの役割。したがって、ハナから大きなハンディキャップを負わされたものだ。イヴシュキンたち4人に与えられた1週間内にやるべき任務は、ナチス・ドイツが回収したボロボロのソ連製戦車T-34の整備。そのためには、まず戦車内に転がっている焼けただれた4人の戦車兵の処分が必要だ。しかし、その作業中にイヴシュキンたちは戦車内に残っていた6発の実弾を発見。そこで、イヴシュキンはイエーガー大佐に対して、兵士たちの死体を丁寧に埋葬したいと願い出てそれが許可されたが、一体イヴシュキンたちは何を企んでいるの？何らかの企みがあれば、イヴシュキンたちがT-34の整備に精を出し、演習場の地形の把握を含む戦略、戦術に全力を傾けるのは当然だ。

しかして、演習当日、整備を終え燃料をタプブリ詰め込んだT-34は、イヴシュキンの指揮の下、どこをどう走り回るの？

## ■□■バカげた設定だが、それでも面白い。なるほど、その2■□■

強制収容所の中で、イヴシュキンは頑として自分の名前と階級を黙秘し続けたが、イエーガー大佐の登場によって2人が“ご対面”すると、イヴシュキンのそんな抵抗はもはや無意味に。しかし、イエーガー大佐の命令どおりに、ヒトラーユーゲントの戦車兵を訓練するため、T-34に乗って逃げ回るだけの演習をやるなんて言語道断。そんなことは絶対お断り！イヴシュキンがそう考えたのは当然だが、それを180度方向転換し全面協力することになったのは、演習に協力しなければ通訳をしている捕虜の女性アーニャ（イリーナ・ストラシェンバウム）を射殺すると脅かされたためだ。

そもそも、通訳を捕虜にやらせる設定がバカげているうえ、それがアーニャのような美女という設定もバカげている。こんな美女ならドイツ兵が目をつけても当然だから、あらぬ妄想が膨らんでくるほどだが、自分の命を守ってくれるのと引き換えにイヴシュキンが危険な任務を背負ってくれたことに、アーニャが心から感謝したのは当然。したがって、

イエーガー大佐の命令に従うフリをしながら、ある極秘の計画を立てているイヴシュキンにアーニャが全面協力したのも当然だ。さらに、このまま収容所に戻りたくないアーニャが、女ながらもイヴシュキンたちと行動を共にしたいと申し出たのも当然だ。

ストーリーがここまで進むと、その後に展開される演習の姿とその結果はある程度予想できるが、ひょっとしてその中にはイヴシュキンとアーニャの恋模様まであるの？いやいや、さすがにそこまでは・・・？そう思っていると・・・？

## ■□ 『大脱走』は脱走失敗だったが、本作は？ ■□

ハリウッドのオールスターが共演した中でも、スティーブ・マックイーン存在感がひとときわ光っていたのが『大脱走』（63年）。しかし、その「大脱走」で無事捕虜収容所から脱走できたのはごく数名だけで、スティーブ・マックイーンを含む多くの男たちは脱走に失敗し、元の収容所に逆戻り。それが同作の結末だった。しかし、たった4人の捕虜が1両の戦車T-34でナチスの軍勢に立ち向かった最高峰の〈戦車アクション・エンターテインメント〉たる本作では、演習場からの「大脱出」の成功はもちろん、脱出中の森の中での男たちの水浴びやイヴシュキンとアーニャの恋物語（寝物語？）まで登場するので、それをしっかり楽しみたい。

演習場からの「大脱走」に成功しても、所詮戦車で走行しながらの脱走だから、そのスピードには限界がある。また、戦車だから悪路でも走行できるとはいえ、山中で木をなぎ倒しながら走ればスピードは落ちるのは当然。したがって、イヴシュキンが指揮するT-34での大脱走を確認したイエーガー大佐は、緊急指揮所を設置し、そこに情報を集めながら幹線道路を封鎖すれば、T-34の捕捉は容易。誰もがそう考えるし、理屈はその通りだ。しかし、映画なら、ましてソ連国民を喜ばせるエンタメ作品なら何でもあり。もっとも、山の中で水浴びまで楽しみ眠りにについているイヴシュキンたちを、飛行機に乗ったイエーガー大佐が発見したうえ、その包囲網を狭めたのは当然だから、そこからの脱出は至難のワザだ。

しかして、本作ラストに登場するのは、その包囲網を突破し再度「大脱走」するクライマックスだから、それに注目！1941年の最後の1対1の対決ではイヴシュキンはイエーガー大佐に敗れたが、今回の1対1の対決は？本作では敵将イエーガー大佐のバカさ加減をあまり目立たせず、それなりの尊厳を保たせながら1対1の対決を盛り上げ、そして最後にはイヴシュキンのヒーロー性を際立たせているので、その演出の見事さに注目！ちなみに、『戦狼2 ウルフ・オブ・ウォー2』では、ラストに中華人民共和国のパスポートが登場したため、思わず観客総立ちで「中華人民共和国万歳！」と叫ぶ姿を想像したが、さて、本作上映直後のロシア国民800万人の反応は？

2019（令和元）年11月12日記

## 追記

# 『T-34 レジェンド・オブ・ウォー ダイナミック完全版（18年）』

2020年2月19日鑑賞 シネ・リーブル梅田

◆本編を上映し、それなりの評判を呼んだ後、さらに時期を見てその完全版やディレクターズカット版を公開する例がまれにある。その代表例が次の3作だ。

- ①『バーフバリ 王の凱旋』（17年）（『シネマ41』141頁）  
『バーフバリ 王の凱旋 完全版【オリジナル・テルグ語版】』（17年）（『シネマ42』未掲載）
- ②『Uボート 最後の決断』（03年）（『シネマ7』60頁）  
『U・ボート（ディレクターズ・カット版）』（97年）（『シネマ16』304頁）
- ③『この世界の片隅に』（16年）（『シネマ39』41頁）  
『この世界の（さらにいくつもの）片隅に』（19年）（『シネマ46』頁未定）

◆しかして『T-34 レジェンド・オブ・ウォー』も、その『ダイナミック完全版』がシネ・リーブル梅田で1週間限定で公開されることに。これは「通常版」で描かれることのなかった計26分のシーンを追加したうえ、エピローグも加えて登場人物たちのその後を知ることができる内容となっているそうだ。「通常版」も結構楽しめるロシア発の戦争エンタメ巨編だったため、こりゃ必見！そう思って映画館へ。

◆『この世界の（さらにいくつもの）片隅に』では、パンフレットも新たに作り、どの部分が追加されたかを詳細に紹介していたが、本作はそこまでのサービスはない。したがって、どの部分が追加されたのかは明示されないが、それはスクリーンを観ていると概ね把握することができる。そのため、それを確認しつつ、「通常版」で満喫した楽しさを、再度ダイナミック完全版でもたっぷり味わうことができた。しかして、堂々と奪い取った「T-34」に乗っての逃避行の中で思いがけず咲いたあの恋は、終戦後どうなったのだろうか？

2020（令和2）年3月6日記